



「てつがくカフェ (café philosophique)」とは、わたしたちが通常当たり前だと思っている事柄からいったん距離をとり、「そもそもそれって何なのか」といった遡行的な問いを投げかけ、ゆっくりとお茶を飲みながら、他の参加者との〈対話〉をとおして自分自身の考えを遅くすることの難しさや楽しさを経験するものです。1990年代に、フランスの哲学者マルク・ソーテが、パリのバステュー広場にあるカフェで始めたのがきっかけとされています。

てつがくカフェ 「医療とケアを問い直す」

人の生老病死に深く関わる医療やケアの現場は、〈てつがく〉的な問いに溢れています。てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」では、福井大学地域貢献事業の一環として、2016年より、医療やケアに纏わるテーマを、哲学的対話実践形式で問い直す場を拓いています。

“理解する”という言葉は、一般的によく使われる言葉です。異文化を“理解する”。何かを学び、さまざまな知識を“理解する”。そして、誰かの気持ちを“理解する”。

私たちひとは、ある意味においてとても不確かな存在です。無意識のうちに習慣化された言葉遣いやしぐさ、癖などはあっても、それは確かな恒常性を備えたようなものではありません。また、ひとの気持ちの揺れ動きや行動のばらつきは、何らかの具体的なルールに則って動かされているわけではないため、同じ一人の人間のなかにあっても、またある集団のなかにおいても、当然のことながらそれらには不確実さや不安定さ、そしてある種の多様さが纏わり付いてこざるを得ません。そういった意味からすれば、この自分のことでさえ理解が困難であるにも拘らず、さらに自分以外の他者を理解することなど可能なものなのでしょうか。それ以前に、そもそも“ひと”と呼ばれているものを“理解する”とはどのような事態を指す言葉なのでしょうか。今回の「てつがくカフェ」では、普段何気なく使っている“ひとを理解する”という言葉に、参加者の皆さんとの対話をとおして、あらためて辞書では表せない意味を見出していきたいと思います。そうすることで、今度は、さらにひとである“患者を理解する”ということの意味へとしっかりと考察が深められていくような気がするのです。みなさまぜひご参加ください。
福井大学医学部医学科4年 渡邊 ゆうき

テーマ
「ひとを理解するとは？」

- ◆ 実施日:2019年2月10日(日)
- ◆ 時間:13時00分~15時30分
- ◆ 場所:大学連携センターFスクエア
(福井駅東口アオッサ7階)

参加無料、事前申し込み不要、どなたでもご参加頂けます(小さなお子様も一緒に参加予定の方は、予めご連絡ください)。途中退出も可能です。

ファシリテータ:西村高宏(福井大学医学部 医学教育・倫理学分野)
 ファシリテーション・グラフィック:近田真美子(福井医療大学 保健医療学部)
 主催:てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」(福井大学地域貢献事業)
 共催:福井大学医学部附属教育支援センター、てつがくカフェ@ふくmedi,
 問い合わせ先:ニシムラ(tanishi@u-fukui.ac.jp)

